

[症例概要]

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置
1	男 70代	頭頸部癌 (なし)	640mg/m <sup>2</sup> (1サイクル 当たり 1日間, 3サイクル)	<p><b>瘻孔</b> 原疾患：切除不能な局所再発の頭頸部癌 (原発巣の部位：口唇・口腔，原発巣の病理組織型：扁平上皮癌，腫瘍部位：右頬粘膜，ECOG PS：0，TNM分類：T3N0M0，ステージ：III期) 既往歴：下咽頭癌，上顎歯肉癌 前治療：頬粘膜腫瘍切除，BNCT（ホウ素中性子捕捉療法）</p> <p>投与前 瘻孔リスクがあることを患者に説明し，同意取得。 投与開始日 本剤640mg/m<sup>2</sup>投与（1サイクル目）。 (1サイクル目) Grade1の背部痛発現，2分程度持続し回復。 投与1日後 1サイクル目のレーザー光照射実施。 ニードルカテーテルを経口的に右頬粘膜の腫瘍部分に4本穿刺し，右下顎部分より経皮的に1本穿刺。シリンドリカルディフューザーで照射。 Grade2の血圧上昇発現。降圧薬投与開始（翌日回復）。 手技が終了し，覚醒後にGrade2の疼痛（右頬部）発現（3日後軽快）。Grade2の浮腫（頭頸部）発現（5日後回復）。 21日後 照射部位である右頬部にGrade2の小さな瘻孔発現。ガーゼでの被覆のみで処置を行った。 28日後 本剤640mg/m<sup>2</sup>投与（2サイクル目）。 (2サイクル目) Grade1の背部痛発現（翌日回復）。 29日後 2サイクル目のレーザー光照射実施。 初回治療と同様にニードルカテーテルを経口的に右頬粘膜の腫瘍部に2本穿刺し，シリンドリカルディフューザーで照射。 レーザー照射中にGrade2の疼痛（右頬部）発現（3日後軽快）。 照射後に壊死組織をデブリードマンで処置。 30日後 Grade2の顔面の浮腫発現（3日後回復）。 63日後 本剤640mg/m<sup>2</sup>投与（3サイクル目）。 (3サイクル目) 薬剤投与後の約5分経過後に，Grade2の背部痛発現，5分程度持続し回復。 終了1日後 3サイクル目のレーザー光照射実施。 ニードルカテーテルを経口的に右頬粘膜の部分に2本穿刺，右下顎部分から経皮的に3本穿刺。シリンドリカルディフューザーで照射。Grade2の疼痛（右頬部）発現（3日後軽快）。 終了2日後 Grade2の顔面の浮腫発現（3日後回復）。 終了29日後 右頬粘膜の瘻孔が拡大。 終了43日後 疾患進行により薬物療法（フルオロウラシル+シスプラチン+ペムプロリズマブ）へ移行。 瘻孔部はガーゼの保護のみ実施。 終了56日後 原疾患の治療のため，薬物療法（フルオロウラシル+シスプラチン+ペムプロリズマブ）を投与開始。瘻孔は未回復。 終了98日後 フルオロウラシル+シスプラチン+ペムプロリズマブの投与終了。</p>
<b>臨床検査値</b>				
			日付不明	投与1日後
拡張期血圧			—	73
収縮期血圧			—	124（レーザー光照射前） 170（レーザー光照射による治療中）
心拍数			74	79
併用薬：マレイン酸クロルフェニラミン，デキサメタゾンリン酸エステルナトリウム				